

## 国別調査 ブルネイ 4 班 —ブルネイの経済と観光—

発表者：長田・山田・森・添田

### ・目次

1. ブルネイの概要
2. 交通
3. ブルネイと日本との関り
4. 文化について
5. 観光
6. まとめ

### ・研究目的・背景

ブルネイと聞くと多くはどこの国であるかわからず戸惑うことであろう。

我々の研究目的は経済と観光を焦点に研究を行う。中でもこれまで注目されていない国と地域を対象に研究することを研究班において議論し、今回我々はアジア諸国に地域を絞り、「ブルネイ」を研究することにした。

### ・研究内容

ブルネイの概要として、面積は 5,765 平方キロメートルであり、三重県とほぼ同じ国土を有し、イスラム教を主体とした国家

である。主要産業は石油天然ガスで大半を石油輸出と観光産業に依存しており、日本との貿易も石油が大半で、LNG においては 6 割近くをブルネイから輸入している。

一方日本からの輸出については自動車に関する製品を輸出している。

イスラム教による政治統制は強く関わっており、中でも不倫等を行った場合には、死刑となる場合など、重罪が課せられる等、観光客においても同様に強力な法律によって裁かれるという特徴を持っている。

続いて観光産業におけるブルネイは、熱帯雨林気候であり降水量も多いため、観光に行くには乾季(2月～8月)をお勧めする。また水上集落カンポンアイールとロイヤルレガリア博物館はブルネイの豊かさや素の暮らしを堪能できる観光地として最適である。

### ・結論

三重県と同等の国土において、石油産油国という資源と水上集落といった豊かな観光資源を保有していること、日本との関係が極めて強く、重要なパートナーであることが確認できた。また、観光については法律が強力であることから安全性が高く、気候的にも観光地として最適であることが分かった。